



K中通信

学校だより第12号
令和5年3月20日
横浜市立軽井沢中学校

【学校教育目標】『主体的に考え行動し、未来を切り拓く生徒の育成をめざします』

- 様々な関わりを通し、よりよく解決する力を育てます。(知・徳・公)
- 持続可能な社会の実現を目指し、しなやかに生きる力を育てます。(体・開)

【ホームページ】 <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/karuizawa/>

バトンは引き継がれた

校長 佐藤 由利

3月8日、102名の卒業生が巣立っていきました。当日、卒業証書を受け取る卒業生の表情は、緊張の中にもとても清々しく、笑顔あり、真剣なまなざしあり、心に沁みました。

「おめでとう。」と一人ひとりに声をかけながら、「ありがとう。」の気持ちも込めたつもりです。三年生の姿に教えられ、笑顔に元気をもらえたのは、在校生だけでなく私も同じです。

後に紹介していますが、代表の福家さんの門出の言葉、それに続く合唱「群青」は、まさにこの三年生の歩んできた3年間や卒業していく今の気持ちの全てが込められたものだったと思います。「この子たちなら大丈夫。がんばっていける。」そんな思いを新たにした門出の日でした。

卒業式に先立って、3月6日月曜日には「三年生を送る会」が行われました。1, 2年生から広く実行委員や有志を募り、準備を進めていました。全校ゲームで会場の空気が温まったところからの、在校生や異動された先生方からのメッセージ動画やスライドの数々。この動画やスライドを、ただ見せるのではなく劇仕立てにしている、その構成の工夫やバレエ、ダンス、歌などのパフォーマンスも素晴らしく、思わず引き込まれてしまうものばかりでした。担当の先生によれば、特に2年生の発想が豊かで、次々にアイデアを出しながら、皆、生き生きと活動していたとのこと。また、会の進行、劇のセリフ、音声、照明など、全て生徒自身の手で運営されており、ステージに上がらないメンバーの活躍も光っていました。

この「三送会」を終えて、「バトンはしっかりと引き継がれた」と感じました。来年度の軽井沢中の明るい未来が見えてきたような気がしています。新3年生、2年生の成長、活躍に大いに期待して、今年度を締めくくれるのは、本当にうれしいことです。

* * * * *

保護者の皆さま、地域の皆さま。今年度もさまざまな対応をせまられる中での教育活動でしたが、皆さまのご理解とご協力のおかげで無事に卒業生を送り出し、年度末を迎えることができました。心より感謝申し上げます。先週2日間は本当に久しぶりに、保護者の方に生徒たちのさまざまな活動を自由に参観していただくことができました。来年度は、地域の皆さまにも以前のように学校においていただく機会を作っていきたいと思っております。

1年間、本当にありがとうございました。